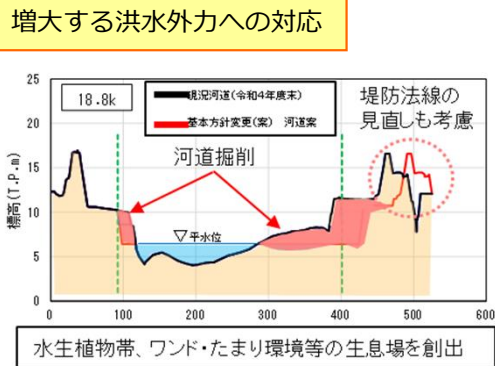
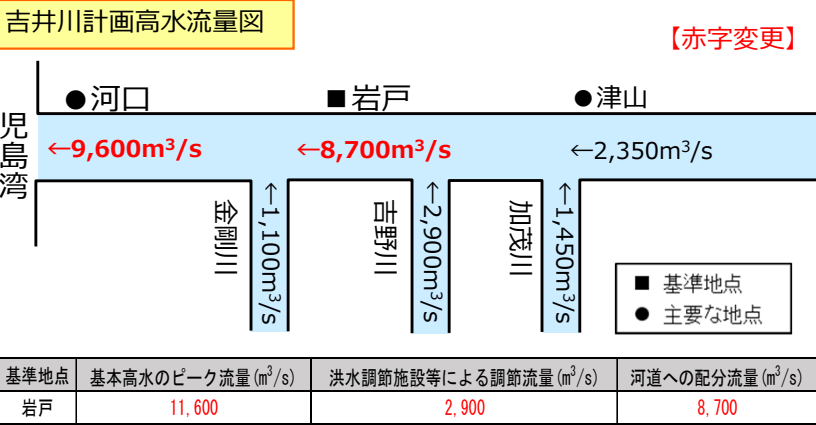
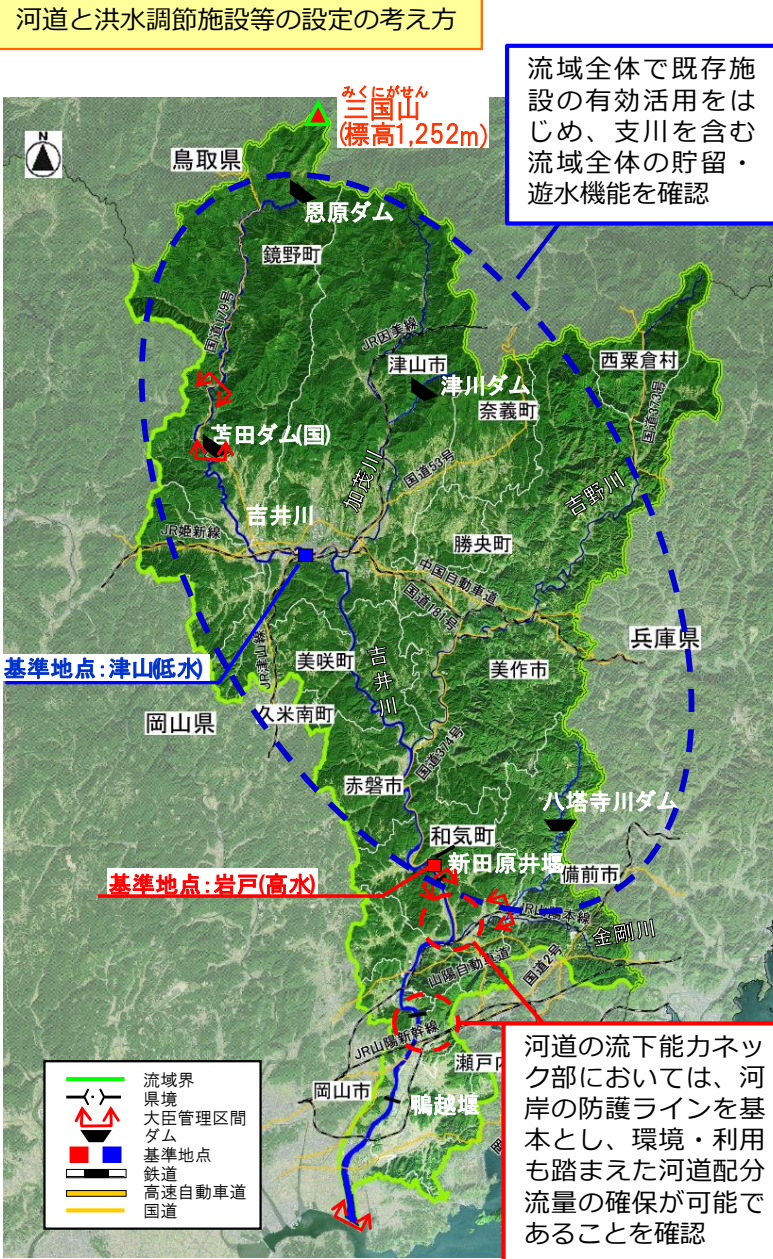
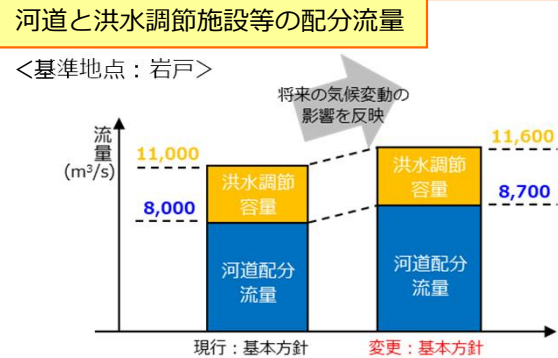


気候変動を踏まえた「吉井川水系河川整備基本方針」変更の概要

吉井川水系

- 長期的な河川整備の目標となる洪水の規模（基本高水）を基準地点岩戸において、11,000m³/sから11,600m³/sに変更し、この基本高水の流量を河道と洪水調節施設等に配分。
- 気候変動の影響による洪水外力増大に対し、流域治水の視点から、流域全体で既存施設の有効活用をはじめ、支川を含む流域全体の貯留・遊水機能を確認し、河道の流下能力ネック部における環境・利用も踏まえた河道の流下能力の検討を行い、河道と貯留・遊水機能の配分を総合的に判断。
- 農業用水路を活用した事前水位調整や排水ポンプ場の整備、民間等の流出抑制対策、砂防、治山対策など、流域治水の取組の更なる推進を図る。



- 流域治水の視点を踏まえ、河道と貯留・遊水機能の分担について以下の考え方のもと検討を実施。
- ① 流域治水の視点から、流域全体で既存施設の有効活用をはじめ、支川を含む流域全体の貯留・遊水機能を確認。
- ② 河道の流下能力ネック部においては、河岸の防護ラインを基本とし環境・利用も踏まえた河道の流下能力を再度検討。
- ③ 上記検討を踏まえて、河道と貯留・遊水機能の配分を総合的に判断。